

この度の東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今年度第8号のメールマガジンをお届けします。受験を控えた中学生へ県立高等学校の魅力ある取組など有意義な情報をお伝えしますので、御活用ください。

なお、県立高等学校についての情報は、以下のホームページを御覧ください。

県立学校「公立高校ホームページ」

⇒ <http://www.pref.miyagi.jp/kyouiku/school/koukou.htm>

■ もくじ ■

- 1 高校の特色ある取組
 - (1) 白石工業高等学校
＜平成23年度 インターンシップ報告会について＞
 - (2) 白石高等学校
＜1年次のディベート学習が始まりました＞
 - (3) 柴田農林高等学校川崎校
＜マレーシア料理に挑戦～「フードデザイン」で国際色豊かな授業～＞
 - (4) 中新田高等学校
＜勉学と行事・部活動で高校生活を思いっきり充実させよう！！
～新生・中新田高校の進路実現を目指した取り組み～＞
- 2 学校紹介スペシャル
 - (1) 泉高等学校
＜無限の可能性 … 瞳輝く泉高生(いずみ)＞
 - (2) 古川黎明中学校・高等学校
＜チャンピオン 母校に来る＞
 - (3) 石巻市立女子商業高等学校
＜支援が取り持つ生徒交流 県外の高校生と絆を深めました！＞
- 3 コラム
 - (1) 仙台東高等学校 教諭 水上達夫
＜元気出していきましょう……＞
 - (2) 水産高等学校 教諭 若松英治
＜アイデアで活路を！～ピンチをチャンスに～＞
- 4 編集後記

■ 1 高校の特色ある取組 ■

宮城県の高等学校の特色ある取組についての情報を紹介するコーナーです。

□ 白石工業高等学校

| <平成23年度 インターンシップ報告会について>

本校では、平成21年度から2学年全員を対象にインターンシップを実施しています。今年度は、7月4日から8日までの5日間を中心に実施しました。参加生徒は178名、受け入れてくださった企業並びに事業所は、57事業所にも及びました。参加生徒は各事業所で貴重な体験をさせていただき、その報告をまとめました。

去る10月6日に白石市文化体育活動センター（ホワイトキューブ）において、各学科の代表13グループの発表会を開催しました。来賓として、宮城県商工観光部産業人材対策課主査の菅原様、大河原地方振興事務所企画員の幾世橋様はじめ、多くの企業、事業所の方に御出席いただきました。発表する生徒達も各自、プレゼンテーションソフトを駆使して多くの方々にわかりやすく説明し、今回の体験を伝える工夫をしました。発表会の最後に、来賓の皆様を代表して、株式会社ケーヒンワタリの佐藤弘哉課長様より、生徒達への御教授と激励を含めた御講評をいただきました。

報告会の運営や進行、準備なども2年生の生徒が主体的に取り組みました。発表を聞いた1年生も来年度に向けて、心の準備や意気込みなどが感じ取れる発表会になったと思います。

最後になりましたが、3月の震災で、各企業・事業所は、その後の対応にご苦労なさっている中、本校生徒のために、インターンシップを受け入れていただき、心より感謝申し上げます。

<国家資格「第二種電気工事士」“電気科1年生13名合格！”>

今年度上期におこなわれた「第二種電気工事士」の試験で、電気科の生徒33名が合格しました。中でも入学後間もない1年生が13名合格したことは、本人達にとって大いに自信につながったと思います。

1年生は震災の不安がまだ残る中、4月半ばに受検申込みをし、5月から放課後の講習会を受講。学校の授業でもまだ習っていない配線図・法令・施工・検査・測定など、不安を抱えて6月初旬の一次試験「筆記試験」に臨み、19名中13名が合格しました。次は7月下旬に行われる二次試験「技能試験」（制限時間45分間で課題回路図を製作する）に合格することです。今まで触れたことがない工具・電線・器具・制限時間など、ますます不安が募ったことと思います。12日間の技能試験講習会でありましたが、8日目あたりから先輩達と同じレベルに達しました。もちろん積極的に居残りを願望して粘り強く努力し、みごと13名全員が合格しました。

電気技術者の登竜門である「第二種電気工事士」という資格取得が、生徒の今後の学校生活に及ぼす影響は大きいものがあります。目標を立て、それに向かって努力し、結果を出したという達成感、生徒の精神を活性化させ、学校生活全般への意欲も向上させます。また、技能を伴う資格取得は机上での座学とは違う学習領域の発見にもつながります。それによって、工業高校で学ぶ「ものづくり」の意義や自信を獲得し、自分の人生の活路を悠に望むことができます。資格取得の成果のみならず、高校生活全般に対して様々な波及効果を期待しています。

→ <ホームページはこちら> <http://www.shiroishi-kougyou.myswan.ne.jp/>

□ 白石高等学校

| <1年次のディベート学習が始まりました>

本校では毎年、1年生の「総合的な学習の時間」の中でディベートを学ぶ時間を

設定しています。今年度も11月から12時間配当でディベート学習が始まりました。1学年7学級でそれぞれ概ね5人ずつ8個の班をつくり、14教室に分かれて対論に挑みます（1つの教室に対論する2個の班と司会担当およびジャッジ担当の班が入ることになります）。

簡単なオリエンテーションでディベートの概要を学んだあと、さっそく「白石高校は制服を導入すべきである（是か非か）」、および「選挙権は18歳以上にすべきである（是か非か）」というテーマで対論を行いました。生徒たちは事前にしっかり準備を重ね、一生懸命に論じ合いました。今後はさらに準備を必要とするテーマにレベルアップしていき、来年2月にはクラス対抗のディベート大会を開催する予定になっています。

→ <ホームページはこちら> <http://www.hakko.myswan.ne.jp/>

□ 柴田農林高等学校川崎校

| <マレーシア料理に挑戦～「フードデザイン」で国際色豊かな授業～>

12月16日、フードデザインの授業で東北大学に留学しているマレーシア人2名を外部講師として招き、マレーシア料理に挑戦します。教科担任の佐々木教諭が平成22年3月まで3年間マレーシアに住んでいたこともあり、今回の取組が実現しました。この授業を履修している3年生15名が、マレーシア人留学生からアドバイスを受けながらナシレマツとムルタバをつくります。ナシレマツはマレーシアの一般的な米料理で、ココナツミルクを加えて炊いた油ご飯のようなものです。一方、ムルタバは薄くのばした小麦粉の皮にひき肉と野菜を炒めたものを包んで焼いたものでイスラム圏定番の軽食の一つです。この取組をとおして、生徒にはこれらの料理の特徴をマレーシアの文化や風土と比較しながら考察させたいと考えています。

→ <ホームページはこちら> <http://www.kawasa-h.myswan.ne.jp/>

□ 中新田高等学校

| <勉学と行事・部活動で高校生活を思いっきり充実させよう！！
| ～新生・中新田高校の進路実現を目指した取り組み～>

中新田高校では、昨年度から、学校スローガンとして「アクティブ中高イノベーション」（自主的・積極的な活動・挑戦によって、中高生・中高全体の変革を目指す）を掲げ、学習・行事・部活動等に力を入れてきました。そのことについては、これまでもメルマガで紹介してきたとおりですが、生徒の進路実現に向けても以下のように様々な取り組みを推進しているところです。

◎進路実現を目指した取り組みの例

①4年生大学・短大・看護学校への進学志望者対象

平日課外講習（2・3学年）、夏季課外講習（全学年）、冬季課外講習（1・2年）、模擬試験対策講習（全学年）、大学見学会（2年：東北学院大・宮城大など）、大学出張講義（大学の先生による出前講座）、小論文講演会（ベネッセコーポレーション）、など。

②就職志望者対象

資格取得のための講習会（全学年・随時）、職場見学会（2年：アルプス電気、結婚式場インパルラ浦島など）、就職講習会（1・2年）、など。

◎ P T A と連携した進路指導の取り組み

① P T A 主催の就職希望者対象模擬面接会

8月2日に本校を会場としてP T A主催の就職希望者対象の模擬面接会が開催されました。大崎倫理法人会の全面的な御協力のもと、加美町役場、警察署、銀行、加美商工会などから18名の講師の方々を派遣していただき、44名の本校3年生がご指導を受けました。社会の一線で御活躍の皆様方から就職試験本番さながらの模擬面接で、生徒一同、大変勉強になりました。服装や態度、さらには面接内容など細かな点まで懇切丁寧なご指導を受けることができました。

② 学年P T Aの実施

進路指導については、学校と保護者の皆様との綿密な連携、共通理解が欠かせません。11月12日に学年毎に学年P T Aが開催され、進路指導の現状についての理解を深めました。

(1) 1・2学年P T Aでは、株式会社ライト製作所の総務課長さんをお招きして、これからの社会人に求められる資質や就職活動の現状についてお話を伺いました。世界中から人材が集まってくる現在、国際舞台で活躍できる人材が求められていること、英語だけにとどまらず外国語の習得が不可欠であること、また、就職試験を受ける学生に元気がない、なぜこの仕事をしたいのか、明確に情熱的に語ってほしい、とのお話でした。

(2) 3学年P T Aには今春卒業した生徒諸君の保護者の方々3名をお招きして、3年生を持つ保護者としての体験、感じていることをパネルディスカッション形式で語っていただきました。

「子どもの成長を手助けする」「コミュニケーションを大切にしたい」「食生活など健康管理に配慮したい」「夢を持たせて、やりたいことの実現に向けて後押しする」「保護者同士の情報交換は役に立った」など、先輩保護者としてのご助言は、ご出席の保護者の皆様方への有益なヒントとなったようです。

詳しくは本校ホームページをご覧ください。

→ <ホームページはこちら> <http://www.nakani-h.myswan.ne.jp/>

■ 2 学校紹介スペシャル ■

高等学校の特色ある取組を含めて学校の取り組み全体をくわしく紹介するスペシャルコーナーです。

□ 泉高等学校

| <無限の可能性 … 瞳輝く泉高生(いずみ)>

昭和48年4月開校の泉高校は来年創立40周年を迎えます。泉ヶ岳の懷に抱かれた自然豊かな住宅地に位置しながら、地下鉄泉中央駅からも徒歩20分（宮城交通バスでも約7分）と交通至便の環境にあります。このような恵まれた環境なので、高校生活に熱い期待をもった生徒たちが、県内各地から集まっています。

◆ 英語科を併設する進学主体の普通高校

文科省SELHi（スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール）指定の成果を生かした、充実した英語の授業が英語科のみならず普通科でも展開され、とくに英語科ではCAI施設を活用した最先端の英語教育を行っています。

◆ 55分授業による授業時間の確保と朝自習、週末課題の充実

授業時間とともに放課後の活用にも効用がある55分授業を本年度より展開。
課外授業や部活動も益々充実してきました。

◆ 温かな学習支援体制と充実した学習支援環境

徹底した個別指導や戦略的な進路指導により、ここ数年目を見張る進学実績を重ねています。また、エアコン完備の自習室も多くの生徒に活用されています。

◆ 生徒の主体的な活動を支えるのびやかな校風

明るくしなやかな気風をもつ本校生徒たちが、日々の活動の中から確かな校風を創りあげています。

◆ HPをリニューアル

日々の泉高の様子も発信されています。ぜひご覧ください！

→ <ホームページはこちら> <http://www.izumihigh.myswan.ne.jp/>

□ 古川黎明中学校・高等学校

| <チャンピオン 母校に来る>

女子プロボクシング現世界チャンピオン藤岡奈穂子先輩（古川女子高校 平成6年3月卒業）が、9月22日（木）に東京で行われた防衛戦で見事に初防衛を果たし、その結果報告のために10月11日（火）に来校しました。本校生徒会が、藤岡先輩の「世界チャンピオン祝賀会（7/2）」に、今後の勝利を願い、千羽鶴を贈ったことが功を奏したのかもしれない。

体育館で行われた結果報告のスピーチでは、中高の全校生徒に対して、自分の中学・高校・実業団時代のソフトボールの経験やボクシングとの出会いについて話して下さいました。最後に後輩への期待を込めて「将来の夢を持つときに是非考えてほしいのは、『何になるか』ではなくて『どんな何になるか』であり、この『どんな』ということが大切です。例えば、医者になりたいという夢があれば、単にお金持ちになれるからではなく、『どんな』医者になりたいのかが大事だと思います。そうすれば、自分の考えがぶれることがなく、例え医者になれなくても、自分が『何か』を持っている事になるので、いつかは夢が叶うと思います。今日は、あまり時間がないので、ボクシングの話ができないのですが、機会がありましたら、是非皆さんにお話ししたいと思います。本当に今日は、ありがとうございました。」と結びました。

→ <ホームページはこちら> <http://www.freimei-j.myswan.ne.jp/>（中学校）
<http://www.freimei-h.myswan.ne.jp/>（高等学校）

□ 石巻市立女子商業高等学校

| <支援が取り持つ生徒交流 県外の高校生と絆を深めました！>

震災後、たくさんの高校と交流しています。7月には、神奈川の高校生が企画した「高校生 東北商店街」への参加のお話をいただき、商業研究部の生徒4名が参加してきました。この企画には、東北の被災地の高校が招待され、地元の名産品などを販売しました。お客様のあたたかい言葉、横浜の高校生の活気ある呼び込みの声、本当にたくさんの元気をいただきました。

10月には、3年生の生徒が愛知県の同朋高校と東邦高校に招かれ、両校の文化祭でシンポジウムに参加してきました。本校生が震災後の避難所の日々や学校生活を話すと、愛知県の高校生は「いま聞いたことを、周りに伝えていくことが自分にできる支援だと思う」と応えてくれました。

11月には、本校の3年生が転校したことで交流が始まった、愛知県半田商業高校の生徒の皆さんが来校してくれました。今回は3年生の間借り先の石巻商業高校で、本校の3年生と交歓会を行いました。その会で、半田商業高校の生徒が課題研究で企画・販売をした、ハート型の実をつける灌木「ハート・ツリー」の売上金を、義援金としていただきました。

交流の中で、たくさんの高校生みなさんが応援してくれていることを、本当に嬉しく思い、私たちの学校を元気にしていく勇気をたくさんいただきました。

→ <ホームページはこちら> <http://www.mediaship.ne.jp/~hsishic/>

■ 3 コラム ■

高等学校の校長先生、一般の先生、生徒代表などが、「我が校」に対する思い、最近の話題などについて語ります。その高校の新しい魅力が発見できるコーナーです。

□ 宮城県仙台東高等学校 教諭 水上達夫

| <元気出していきましょう……>

県高校総合体育大会テニス競技女子団体準優勝、第52回東北高等学校テニス選手権大会出場。県高校新人戦陸上競技100m決勝4位、東北大会出場。同三段跳び決勝4位、東北大会出場。同砲丸投げ決勝3位、東北大会出場。国体少年B選考競技会走り幅跳び決勝1位、国民体育大会出場。仙台市民総体男子バレーボール第2位。

ここには、目覚ましい成果を上げた競技だけを挙げました。もちろん、他にもたくさんの運動部や文化部が元気よくやっています。今は、多くの運動部は基礎体力の充実に地道な練習を積み上げる時です。夜間照明輝く校庭で、体育館で、たくさんの生徒が汗を流しています。一方、校内では吹奏楽部、演劇部、マジック部、茶道部、華道部といった文化部の諸君が、稽古に、練習に励んでいます。

本校もまた、建物のみならず、多くの生徒が被災しました。傷を癒すにははまだ時足らず、不便や悲しみをかかえながらも、東高生は力強く歩みを進めています。運動会・体育大会、文化祭、大きな行事も例年通り開催できました。週末課題に課外講習、勉強にも励んでいます。復旧から復興へ、さらなる飛躍を期して仙台東高生は、元気です。

→ <ホームページはこちら> <http://higasi-h.myswan.ne.jp/>

□ 水産高等学校 教諭 若松英治

| <アイデアで活路を！～ピンチをチャンスに～>

東日本大震災で校舎・総合実習棟の一階が浸水し、溶接機械や食品加工工場が使えなくなってしまいました。さらに、万石浦にある栽培漁業実習棟では、飼育していた生物が全滅、万石浦にある養殖いかだも流されてしまいました。現在本校は石巻北高等学校の敷地内にある仮設校舎で学習活動をしています。被害は大きかったものの、本校ではこれを“ピンチ”とは捉えておりません。

例えば、情報科学科では、震災で厳しくなると考えられる就職率100%を維持

するため、一年間を通して複数の国家資格の指導を行う体制を整えました。これにより、例年より多くの生徒が国家資格に連続的に挑戦するようになりました。今年は、生徒たちの熱意から新たに「独立して社長」も夢ではない“電気工事士”の講習も始め、生徒たちはこれまでになく集中して熱心に資格に取り組むようになりました。万石浦の養殖施設はこれまで先輩方が築いた“養殖いかだ”が既にあったため、その先からの実習となっていました。今年はゼロからのスタートです。“いかだ”を自分たちの手で組み、実習施設を再び築きました。このように例年よりも、より多くのことを学べる機会として捉えれば、“チャンス！”と考えることができます。また、食品科学類型では加工場や冷凍庫まで使用不可となり、これまでのように缶詰をはじめとする食品製造ができなくなりました。当初「今ある施設では“何もできない”」と半ば諦めていましたが、3年生を中心に「与えられた環境で“できることは何か”」を模索してきました。そこで、仮設校舎の調理室を徹底的に掃除し、磨き上げることで“営業許可”を正式に受け、仮設校舎でもできる新たな商品として“干物”に着目し、文化祭で販売するなど、ブランド化を目指して立ち上がりました。何も無ければ何のアイデアを生み出すことなく過ごしていたかもしれません。

震災が要因で積極的に行動できたこと、より多く学ぶことができたこと、深く考えて良いアイデアが生まれたこと、など考え方や気の持ちようで“ピンチ”は“チャンス”に変わります。「〇〇がダメだから何もできない」ではなく、「〇〇はダメだけど□□はある。今できることは何か！？」と考えれば希望が湧いてきますし、心も躍ります。水産高校は、確かに大きな打撃を受けましたが、学校全体で大切なことに気付けたのではないかと考えています。

そんな宮水の活動はこちらでチェック！

→<ホームページはこちら> <http://miyagisuisan.myswan.ne.jp/>

■ 4 編集後記 ■

今回のメルマガも、各高校からの情報が満載です。冬休みを間近に控え、中学生の皆さんにとって、進路の実現に向けてラスト・スパートをかける非常に大切な時期を迎えます。

どの高校で学ぶか、最も悩む時期だと思います。今年度のメルマガは、今回で終了ですが、これまでのバックナンバーは高校教育課のホームページに掲載しています。いろいろな情報をもとに将来について考え、志望する高校を選び、自分の夢の実現に一步でも近付くことができるよう力の限りを尽くして頑張ってください。皆さんの頑張りを心から応援しています。

高校教育課 情報メール（メールマガジン）

○発行：宮城県教育庁高校教育課

〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目 8-1

TEL：022-211-3626 / FAX：022-211-3696
